令和５年度　えだまめ栽培指針・直は栽培(7/下～8/下収穫作型)

上越農業普及指導センター

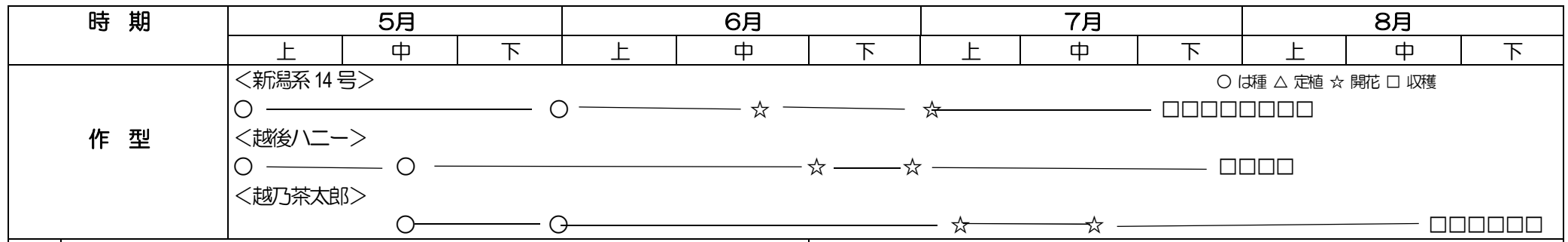
＜栽培のポイント＞

〇作付け前の排水対策を徹底
〇砕土率をあげて出芽率の確保・除草剤効果向上
〇開花期後の粒状追肥の実施
〇病害虫（ｳｺﾝﾉﾒｲｶﾞ・黒根腐病・炭そ病）・さやシミ症対策
〇雑草防除の徹底
〇適期収穫と早期予冷

＜品種・作型（例）＞

品種	は種～収穫日数	は種期	開花期	収穫期
新潟系14号	85日程度	4/30~5/30	6/14~7/2	7/21~8/7
越後ハニー	88日程度	4/30~5/15	6/21~7/1	7/29 ~8/4
越乃茶太郎	95日程度	5/15~5/30	7/5 ~7/14	8/16~8/24

令和5年3月改定



管理方法

耕うん同時うね立ては種機を使った直は栽培

1　ほ場準備

- ほ場が十分乾いてから作業する。
- 低速で走行しアップカットロータリーは高回転として、砕土率を高める。

（1）事前の排水対策
- 前年秋や春先にサブソイラー（弾丸暗きょ）・耕盤破砕を施工。
- 春先に周囲明きょを施工。必ず排水口につながるよう留意。

（2）は種作業のポイント】
- **事前に耕耘しない**　（やむをえず耕耘する場合は 8 ㎝程度と浅く）。
- トラクターの作業速度（0.25～0.3m/秒）。
- 砕土率の向上（70～80%）

2　は種

- は種深土**３ｃｍを遵守**
  は種作業開始直後には種溝を掘って種子と、は種深土を確認する。
- 発芽勢をそろえるためにも**5月上旬以降の耕うん・は種を基準**とする。
- **種の大きさと目皿が合っているか確認**（穴の内径 9mm、10.5mm、11mm）。

（1）栽植密度

品種	畦幅	株間	粒数	10a 当たり株数
新潟系 14 号	80 ㎝	15～20 ㎝	**2粒**	16,666～12,500 株
越後ハニー	80cm	22～25cm	1 粒	5,682～5,000 株
越乃茶太郎	80cm	25～27cm	1 粒	5,000～4,630 株

- 必ずスプロケットと目皿の穴数を株間に合わせること。

（2）施肥例

＜基肥（kg／10ａ）＞

〇新潟系 14 号

	施用量	N	P	K
Ｇライム 72	120	－	－	－
BM畑作3号	60	7.2	6.6	7.2

〇越後ハニー

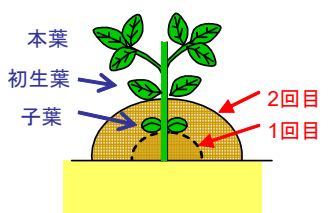
	施用量	N	P	K
Ｇライム 72	120	－	－	－
BM畑作3号	20	2.4	2.2	2.4

〇越乃茶太郎

	施用量	N	P	K
Ｇライム 72	120	－	－	－
BM畑作3号	0～20	0～2.4	0～2.2	0～2.4

3　栽培管理

（1）土寄せ
- 倒伏防止、発根促進、うね間の除草が目的。



＜実施の目安＞

	時期	土寄せ量
1回	本葉2枚頃	子葉節まで
2回	本葉5枚頃	初生葉節まで

培土後は必ずうねと周囲明きょ及び排水口を連結すること

※茎疫病、黒根腐病が発生する場合は中耕のみとし、排水対策を確実に行う。

（2）先刈り　＜生育揃い及び倒伏防止＞

摘芯 開花直前の主茎長が 30cm 以上になった場合、未展開上位葉３枚を摘芯し、中段の分枝を伸ばしバランス揃える。機械で摘芯する場合は、地際から 30cm を目安に先刈りを行う。この際、分枝の生長点を切らないよう注意！

＜倒伏防止＞

葉先刈り１ 未摘芯ほ場でも、風や根張り不足等で倒伏の恐れがある場合は、（原則開花前）先端の葉のみカットする。

＜収穫効率向上＞

葉先刈り２ 機械収穫の場合、収穫直前（前日～当日）に先端の葉をカットすると莢の回収率が向上する。

4　栽培管理

（1）追肥（10ａ当たり）

回数	時期	施肥量	目的
1	開花盛期	NK化成 E989 25kg	莢数確保
2	莢肥大期・収穫１０日前	NK化成 E989 25kg	莢肥大・食味

（2）かん水
- は種後７日以上降雨がなく乾燥が続くと予想される場合は、軽く通路かん水をおこなう。
- 開花期前後及び莢肥大期の土壌水分不足は、着莢、莢肥大に影響が大きいので、必要に応じて過湿には注意しながら通路かん水する。

（3）食味向上対策
☆防除時に液肥の葉面散布を２回以上実施する。

5　主な病害虫等

〇ウコンノメイガ（俗称 ハマキムシ）
虫による食害は 7/中からで、8/上～中がピークとなる。
葉を食害し、糸で葉巻を作る。
中生～晩生品種で被害が出る。大豆では重要害虫となる。
葉巻を作るので、ツメクサガと見分けられる。

〇カメムシ類
６月以降発生するが、７月～８月上旬収穫では被害は少ない。
８月中旬以降の中生～晩生品種で被害が多く注意が必要。
莢肥大期に、肥大途中の子実を吸汁し食害する。吸汁された莢は、子実の肥大ができず、しいな、クズ莢になる。

〇黒根腐病
下葉から株が黄変し、枯れあがる。
地際の茎や根が黒変し、白色の菌糸と赤色の子のう殻を生じる。
連作ほ場や排水不良で多発し、特に梅雨時期に湿害で発病が増加する。

排水不良田での黒根腐病の発生（株元が赤黒くなる・茎葉が黄化する）

〇さやシミ症・炭そ病
さやにシミやカビが発生し、品質を著しく低下させる。開花～莢肥大期の多湿環境で発生が多い。定期的な殺菌剤防除が必要。
※防除についてはＪＡえちご上越作成のえだまめステージ別防暦を参照する。

6　収　穫 ･･･茶豆は特に採り遅れ注意。収穫適期３日間。

- 莢厚が中生は8mm、中晩生９～１０mmになったら収穫を開始する。
- 収穫は朝（9時前）か夕方（16 時以降）の涼しい時間帯に行い、脱莢後はできるだけ品温を上げないよう留意する。